

研究評価委員会におけるコメント

第23回研究評価委員会（平成21年10月29日開催）に諮り、了承された。研究評価委員会から以下のコメントが出された。

創薬加速に向けたタンパク質構造解析基盤技術開発(中間評価)

- より生体に近い状態のタンパク質の構造解析が謳われているが、昆虫細胞で発現したタンパク質の糖鎖は動物細胞とは非常に異なる。膜タンパク質の発現に動物細胞の系も検討することが望ましい。

次世代自動車用高性能蓄電システム技術開発(中間評価)

- 自動車用電池の寿命目標（10年以上）は、定置用の場合と考え方が大きく違うと考えられるため、更に詳細な使用条件を設定することが重要である。

次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト(中間評価)

- 日本のロボット開発全体において、つくろうとしているロボット開発の目標が高過ぎるのではないか。目標は高い方が技術開発がより進む場合もあるが、もっと汎用的で使えるものを出して、市場で試す必要があることについても考えていただきたい。
- ロボットがもたらす知能化の中で、特に危険性の問題は早めに議論しておいたほうが良い。戦争のようなものに活用されていく可能性というものが未来社会の中で大きな危険要因であり、ネガティブな部分に対してどう抑えていくかといった内容についても議論が必要である。